

〔教育研究活動におけるオリジナリティ〕

岐阜県立看護大学における ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動の特徴

石川 かおり 古川 直美 山本 真実 大川 眞智子
布施 恵子 奥村 美奈子 北山 三津子 黒江 ゆり子

Characteristics of Faculty Development in Gifu College of Nursing

Kaori Ishikawa, Naomi Furukawa, Mami Yamamoto, Machiko Ohkawa,
Keiko Fuse, Minako Okumura, Mitsuko Kitayama and Yuriko Kuroe

I. はじめに

大学におけるファカルティ・ディベロップメント（以下、FD とする）は、1999 年の大学設置基準の改定によってその実施が努力義務化され、2008 年 4 月施行の改正において実施が義務化された。これは、教員個人に対する義務付けではなく、大学が教育内容および教育方法の改善に向けた取り組みを組織的に実施することを義務付けたものであった。その後、看護系大学においても、看護学教育の特質を踏まえた体系的な FD 活動のマザーマップが開発されてきた。

このような潮流のなかで、本学では、開学当初から看護専門職を養成する大学教員としての個々の教育・研究能力の開発を図るとともに、大学組織の一員として大学の理念と目標に合致した教育を行い、大学を継続的に発展させていくために必要となる能力の開発を目指して、教育能力開発委員会が、各種研修会等の企画・運営に責任をもって実施する体制を整え、FD 活動を継続してきた。

本稿においては、まず、本学の FD 活動のうち、教育能力開発委員会が主体となって企画・運営してきた FD 研修会と FD 学外交流に焦点を当てて、その特徴について述べる。続いて、大学全体で取り組んでいる FD 活動の全体像について説明する。

II. 教員の主体的な参画を基盤とする全学的な活動としての FD 研修会

教育能力開発委員会では、(1) 岐阜県立看護大学の教員として、大学全体への視野を持って考えることができる教員としての教育能力開発を目指した活動を行うこと、(2) 教員一人ひとりが主体的に考え行動することを基にして、教員同士が対等な立場で一人ひとりの体験を共有することを通して互いに高めあっていくことを促すこと、(3) 大学の人材育成の目標を実現することを目指して、今直面している課題を取り上げること、の 3 点を活動方針として、これまで様々な研修会を企画・実施してきた。教育能力開発委員会が主体となって企画・運営してきた FD 研修会の概要は表 1 に示すとおりである。

FD 研修会のテーマを概観すると、研修会で取り上げる内容は授業内容や教育方法、実習指導方法などの授業運営に関するもののほか、学生生活支援、社会貢献、入学選抜、倫理、研究、大学運営など多岐に亘っており、本学の教員としての幅広い能力の育成を目指してきたことが分かる。また、平成 23 年度からは、教員だけでなく職員も対象とした FD/SD 研修会も開催するようになった。特に大学の法人化以降は、一つのテーマに関して教員と職員がそれぞれの視座から話し合い、課題に向けて協働していくことの重要性が教職員間で共有された。

表1 これまでの教育能力開発研修会の概要

年度	開催月	研修会テーマ	方法	参加者数 (参加率)
30年度	9月	<教務委員会との共同企画> 「成績評価のあり方を考える研修会」	グループ討議	52 (98.1%)
	9月	「外部研究資金応募に向けた研修会」	グループ討議	23 (一) ※希望者のみ
	12月	<総務企画課との共同企画> FD/SD 「大学の内部質保証に関する研修会」	講義	53 (96.4%) +事務職 15
	3月	<看護研究センターとの共同企画> 「看護実践研究指導事業のこれからを考える研修会 その2」	講演・グループ討議	51 (92.7%)
	3月	<学生生活委員会、総務企画課との共同企画> FD/SD 「学生生活支援の方針の検討と共有に向けた研修会」	グループ討議	53 (96.4%) +事務職 13
29年度	9月	<教務委員会との共同企画> 「学位授与方針（ディプロマポリシー）と教育活動との関連を考える研修会～学生の特性を考慮した教育の工夫～」	グループ討議	47 (92.1%)
	9月	「外部研究資金応募に向けた研修会」	希望者のみグループ討議	21 (一) ※希望者のみ
	3月	<看護研究センターとの共同企画> 「看護実践研究指導事業のこれからを考える研修会」 学外交流報告会「“地域貢献活動”をテーマとした長野県看護大学との交流」	講演・グループ討議 情報提供	47 (92.2%) 46 (90.2%)
28年度	8月	「平成27年度 学外交流報告会」	情報提供	45 (84.9%)
	8月	「外部研究資金応募に向けた研修会」	希望者のみグループ討議	37 (一) ※希望者のみ
	3月	<看護研究センターとの共同企画> 「共同研究事業の今後の発展とあり方を考える研修会」	講演・グループ討議	45 (91.8%)
	3月	<教務委員会との共同企画> 「学位授与方針（ディプロマポリシー）と授業科目との関連を考える研修会」	グループ討議	47 (5.9%)
27年度	9月	<教務委員会との共同企画> 「本学の将来の<教育>について～本学の学生の特徴・ニーズ、教育の現状と成果から考える～」	グループ討議・全体共有	51 (96.2%)
	9月	職位別交流会 実習での苦労話あれこれ、研究を始める準備や進め方、教員のメンタルヘルス など	昼食をとりながら自由に討議	26名 (一) ※希望者のみ
	9月	テーマ別研修会 ① 実習における学生指導・環境の調整1 ② 実習における学生指導・環境の調整2 ③ 参加型学習 ④ グループワーク支援 ⑤ 看護実践研究 ⑥ 科研費応募1 ⑦ 科研費応募2 ⑧ 科研費応募3	希望したテーマ別のグループ討議	51 (96.2%)
	12月	<教務委員会との共同企画> 「学生の主体的な学習を促すための効果的な教育方法のあり方」	グループ討議・全体共有	50 (94.3%)
	3月	<看護研究センターとの共同企画> 「本学卒業生の生涯学習支援に関する研修会」	情報提供・グループ討議・全体共有	51 (96.2%)
	8月	「科学研究費助成事業応募に向けた研修会」	グループ討議	41 (85.0%)
	9月	「学生の主体的な学修支援」をテーマとした三重大学看護学部との交流について	情報提供	49 (98.0%)
26年度	9月	<教務委員会との共同企画> 「生涯学習の基盤づくりにおける本学の教育の成果について」	グループ討議・全体共有	49 (98.0%)
	9月	テーマ別研修会 ① 教育と研究活動について ② 4年間の学修過程の明確化 ③ 倫理教育について ④ 実習に効果的につなげる技術演習の方法 ⑤ 授業方法の工夫ー事前課題の活用を含めて ⑥ 教員の看護実践能力をどう考えるか	希望したテーマ別のグループ討議	49 (98.0%)
	12月	「研究倫理に関する研修会」 報告「研究倫理審査の条件付き承認の理由の分類」 ①理解を求めたり意思決定が難しい対象（精神障害者・認知症患者・救急患者・子ども等）への倫理的配慮 ②実践研究を現場で行う際の現場の日常業務との兼ね合いや理解における倫理的配慮 ③教育研究の方法と倫理的配慮	情報提供・テーマ別グループ討議	49 (100%)
	3月	「一本学の使命と将来のあり方について考える」FD/SD	情報提供・グループ討議	71 (94.7%)

年度	開催月	研修会テーマ	方法	参加者数 (参加率)
25年度	8月	「文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会」	グループ討議	48 (90.1%)
	12月	＜教務委員会との共同企画＞ 「学士課程教育に関する研修会：学生の主体的学修を促す教育の取り組みや工夫」	情報提供・グループ討議	48 (96.0%)
	3月	＜看護研究センター、研究交流促進部会との共同企画＞ 「岐阜県看護実践研究交流会会員への研究支援の充実に向けた研修会」	情報提供・グループ討議	49 (98.0%)
24年度	7月	＜教務委員会との共同企画＞ 「大学教育に関する研修会：本学の教育理念を具現化するための学士課程教育のあり方」 講師：学長	講義・グループ討議	50 (100%)
	8月 9月	「文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会」	グループ討議 (2回実施)	50 (98.0%)
	9月	＜教養・専門関連科目運営委員会、教務委員会との共同企画＞ 「23年度学外交流 (初年次教育) についての報告と本学の授業内容 (専門関連科目) の報告による共有」	情報提供	50 (98.0%)
	9月	＜教務委員会との共同企画＞ ①実習における実践と理論の統合 ②学習に関わる基礎能力向上のための教員のかかわり	グループ討議	50 (98.0%)
	11月	＜学生生活委員会との共同企画＞ FD/SD 「学生生活支援に関する研修会：青年期のうつおよび学習障がい・発達障がいを捉えた学生生活支援」 講師：黒田弘彦氏 (本学顧問医)	講義	63 (94.0%)
	12月	＜教務委員会との共同企画＞ 「成績評価に関する研修会」	情報提供・グループ討議	51 (100%)
23年度	9月	「文部科学省科学研究費補助金の申請に向けた研修会」	グループ討議	52 (98.1%)
	9月	「本学の授業内容を共有し、理解を深める - 専門科目について -」	情報交換	50 (98.0%)
	9月	＜教務委員会との共同企画＞ 「卒業時到達目標について」	情報提供と グループ討議	50 (98.0%)
	12月	＜キャンパスハラスメント防止対策部会との共同企画＞ FD/SD 「キャンパスハラスメント防止教職員研修会」	情報提供、グループ討議	68 (95.8%)
	3月	＜看護研究センター・研究交流促進部会との共同企画＞ 「看護実践研究指導事業の活性化について - 看護実践研究指導事業への支援方法 -」	情報提供・グループ討議	48 (96.0%)
22年度	9月	「文部科学省科学研究費補助金の申請に向けた研修会」	グループ討議	50 (98.0%)
	9月	＜教務委員会、教養・専門関連科目運営委員会との共同企画＞ 「卒業時到達目標について - 教養教育を含む -」	グループ討議	48 (98.0%)
	9月	「学生の主体的な学習を支援するには」	グループ討議 (職位別)	48 (98.0%)
21年度	6月	＜入学試験委員会との共同企画＞ 「入学者選抜方法の充実に向けた研修会」	情報提供・グループ討議	51 (98.1%)
	9月	＜倫理委員会と共同企画＞ FD/SD 「情報セキュリティ研修会」 講師：國井拓氏	講義	49 (94.2%) + 事務職 14
	9月	平成20年度学外交流報告「金沢工業大学における倫理教育について」	情報提供	46 (92.0%)
	9月	「卒業時到達目標・看護学統合演習 看護基本技術について」	情報提供・グループ討議	46 (92.0%)
	9月	情報提供 ①人体・治療学の学習状況をどのように確認し、専門教育の展開をしているのか ②食事指導に関する授業内容として、どのようなことをしているのか (食生活論との関連)	付箋を使った情報共有	46 (92.0%)
	9月	テーマ別研修会 ①適切な成績評価の方法 ②自己学習と授業を効果的に連動させる方法 ③就職したくなる施設づくり ④実践と理論の統合を効果的に進める方法 ⑤学生の特性を捉えた指導の方法 (入学初期、実習開始時)	グループ討議	46 (92.0%)
	9月	「文部科学省科学研究費補助金の申請に向けた研修会」	グループ討議	49 (98.0%)
	11月	＜教務委員会との共同企画＞ 成績評価に関する検討会	情報提供・グループ討議	49 (98.0%)
20年度	9月	「大学・大学院GPについての報告」 モデルを活用した助産師技術教育の充実、学外看護職者との共同FDと実習基盤形成、看護学科における学習支援システムの開発、卒業者との交流による在学生への就職支援、看護実践改革に直結した研究指導方法の開発	情報提供	50 (96.5%)
	9月	＜教務委員会との共同企画＞ 看護学統合演習について (看護実践能力の評価基準、自己学修支援の方法など)	情報提供・グループ討議	50 (96.5%)

年度	開催月	研修会テーマ	方法	参加者数 (参加率)
20 年度	9月	テーマ別研修会 ①モデルを活用した教育方法の充実について ②実習指導看護職者との共同FDの具体化に向けて ③ICTを活用した教材作成と学習支援について ④卒業者と在学生の交流による就職支援方法について ⑤看護実践改革に直結した研究指導方法について ⑥防災(消防)訓練の充実を考える ⑦看護学士課程における教養科目・専門関連科目の大切さをどう考え、どう学生に伝えるか	グループ討議	50 (96.5%)
	11月	<公立大学法人移行検討部会との共同企画> FD/SD 「公立大学法人岐阜県立看護大学(仮称)の定款及び組織について、法人移行後の教職員の勤務条件等について」	情報提供と質疑	51 (98.1%)
	12月	<公立大学法人移行検討部会との共同企画> 地方独立行政法人法の説明(公立大学法人の法的位置づけ)、他大学の労働時間管理の状況、11月20日説明会の意見・感想シートにおける質問への説明、教員の労働時間調査結果と労働時間管理の課題、法人移行後の教授会・委員会組織について、中期計画について、グループ討議	情報提供・グループ討議	48 (92.3%)
	2月	<倫理委員会・LAN管理運営委員会との共同企画> FD/SD 「情報セキュリティ基礎講座」 講師：國井拓氏	講義	49 (94.2%)
19 年度	9月	「学士課程卒業時の到達度とその評価方法」	グループ討議	48 (90.6%)
	9月	ポスター掲示 ①看護過程の展開の教授方法を中心とした各講座の教育・研究取り組み ②国大協教養教育シンポジウムの報告 ③名古屋大学高等教育研究センター視察報告	ポスター掲示・討議	48 (90.6%)
	9月	テーマ別研修会 ①卒業教育・現任教育への大学の役割・機能 ②卒業研究指導において実践研究の意義を学生にどう伝えるか ③実習と看護実践の改善につながる実習指導者とのかかわり方 ④学生カンファレンス・グループワークの進め方 ⑤学生の主体的学習を促す教育方法 ⑥教職員の健康管理 ⑦学生の相談への対応-教員だからできること-	グループ討議	48 (90.6%)
	9月	「実習倫理検討会」	グループ討議	42 (89.4%)
	3月	「実習に活かす実習倫理について」	グループ討議	45 (91.8%)
18 年度	6月	<研究科委員会FDとの共同> 「専門看護師づくりについて」 講師：小島操子教授	講義	35 (70.0%)
	9月	「学士課程教育を生涯学習支援の観点から振り返る-教育課程検討に向けた看護技術教育に関する調査報告書を基に-」	グループ討議	47 (87.0%)
	9月	ポスター掲示 ①各講座および研究センターの教育・研究活動の紹介 ②e-ラーニング ③GPA(成績指標値)について	ポスター掲示・討議	47 (87.0%)
	9月	テーマ別研修会 ①実習指導者(教員を含む)の支援について ②卒業研究の指導方法について ③講義・演習の展開方法の工夫について ④看護実践現場と教員の共同について ⑤主体的な学習を促す支援について ⑥教職員の健康管理について	グループ討議	47 (87.0%)
17 年度	2月	「Work Based Learningに関する海外研修報告-看護実務経験から学びを引き出し高めるために-」	グループ討議	48 (90.6%)
	6月	「領域別実習における個人情報保護法施行後の影響と取り組みを必要とする課題について」	グループ討議	37 (72.5%)
	8月	人体・治療学の科目内容の共有と課題の検討「看護として何をしっかり学んでおくことが必要か、科目の精選充実という観点から」	グループ討議	40 (88.9%)
	9月	卒業研究を通じて獲得する看護実践能力とは? (教務委員会との共同企画)	グループ討議	44 (86.2%)
	9月	<学生生活委員会との共同企画> 「ハラスメント対策の前に-ハラスメントとは何かを考えてみよう」	情報提供・コミュニケーションボード	44 (86.2%)
	9月	テーマ別研修会 ①教える(ティーチング)ということについて考える(授業展開・実習指導を含む) ②学生の心の問題への対応(学内カウンセリング、教員として配慮すべきこと) ③授業内容を精選してみようの問題・課題 ④看護学実習における個人情報保護について(卒業研究を中心に)	グループ討議	44 (86.2%)

年度	開催月	研修会テーマ	方法	参加者数 (参加率)
17 年度	2月	<学生生活委員会との共同企画> 「キャンパスハラスメント対策に向けて」	グループ討議	49 (98.0%)
	2月	<研究流促進委員会との共同企画> 「共同研究・看護実践研究指導事業の教育への活用・連動について」	グループ討議	49 (98.0%)
16 年度	9月	「岐阜県健康・福祉行政について」 講師：塩谷千尋氏	講義	不明
	9月	「卒業研究について」	情報交換	50 (不明)
	9月	テーマ別研修会 ①授業内容精選の方向と方法について ②卒業時の到達目標・評価の考え方 ③4年間の学習プロセスから学外演習を考える ④共同研究の教育への活用・連動 ⑤学生生活を支援する教員の能力 ⑥倫理・人権の教育について（倫理報告書を素材に）	グループ討議	50 (不明)
	2月	「岐阜県の看護行政の現状と課題」 講師：田辺満子氏	講演、意見交換	不明
	2月	「個人情報保護法とその実施について」 講師：高橋俊文氏	講演	45 (不明)
	2月	「個人情報保護法施行に当たって教育への影響と取り組み課題について」	グループ討議	45 (不明)
	9月	テーマ別研修会：本学の教育理念に照らし合わせて考えよう ①領域別実習に関すること ②卒業研究Ⅰに関すること ③到達目標に関すること ④人権や倫理に関すること ⑤本学の教育理念の沿った教養教育のあり方 ⑥学生に課すレポートなどの負荷の適正化について	グループ討議	48 (不明)
15 年度	3月	「法人化問題を控えて大学経営の考え方ー経営マインドと公的機関の役割ー」 講師：轟芳英氏	講義	48 (不明)
	3月	「学士課程における看護実践能力の到達目標について」	グループ討議	48 (不明)
	9月	テーマ別研修会 ①実習中における既習内容（技術学習、専門関連科目、専門科目・・・）の生かし方 ②実習中・後におけるカンファレンスの進め方と工夫 ③実習ローテーション時期別に見た到達目標の考え方 ④実習における現地指導者との関係づくり（働きかけ、調整、立場の違いなど・・・） ⑤人権を守るといことをいかに教えるか ⑥看護における教養科目について考える ⑦授業時間が足りないと感じることと工夫	グループ討議	50 (不明)
14 年度	12月	「弁護活動から考える患者の人権」 講師：増田弁護士	講義	53～54 (不明)
	3月	「コミュニティビジネスの特徴と課題」 講師：中村共一氏	講義	44 (不明)
	3月	「国家試験に関してー学生が国家試験の勉強に主体的に取り組むために、教員としてどのような働きかけをしたり、環境を整えたりすればよいのかー」	グループ討議	44 (不明)
	5月 6月	「科目の具体的な内容と授業方法及び評価に基づく工夫や課題について」	情報交換	不明
13 年度	9月	テーマ別研修会 ①授業で取り上げている体験学習の目的・方法、授業全体での位置づけ、効果・課題などについて ②看護技術演習として行っている技術項目とその方法、順番、課題などについて ③予習・復習を含めた授業資料作りやプレゼンテーション、教材活用の工夫について ④90分の授業時間をどう使うか、学生の理解に合わせる工夫、授業展開の具体的な工夫について ⑤グループワークの目的や方法、授業全体での位置づけ、効果、課題などについて ⑥看護学概論における学生の学び（学外演習レポートなどを用いて具体的に）について	グループ討議	48 (不明)
	3月	「H13年度に行われた授業と学生の評価などについて」	情報交換	不明

これら多様な研修会のテーマ選定に関しては、特に平成18年度から全教員を対象とした「意見調査」を実施し、教員個々の教育・研究能力に関するニーズを確認している。把握したニーズをもとに、教育能力開発委員会は、本学の理念や人材育成目標を踏まえてFDとして組織的に取り組むべき課題を吟味して、全学的な研修会を企画している。このように、日々の教育活動の過程で各教員が感じている疑問や問題意識が、全学的な課題へと昇華し発展していることは、本学のFD研修会の特徴といえる。

また、教員一人ひとりのニーズ把握と並行して、各種委員会・部会等からの企画の提案を受け、教育能力開発委員会と各種委員会・部会が連携して運営する取り組みも開始された。これは、大学の様々な管理・運営を担う各種委員会・部会が捉えている大学の課題について、教員間の共通認識を形成し、課題に向けた具体的な方策を全教員で検討することをとおして各種委員会・部会の実際の活動に反映するという組織的な課題解決の取り組みとなっている。なお、平成17年度から算出している各研修会の参加率はいずれも高いことから、多くの教員が問題意識を持って主体的に研修会に参加しており、研修会自体が実質的な意味で全学的な取り組みとなっていることが確認できる。

研修会の方法としては、所属領域や職位を越えて交流し、互いに高め合うことを重視していることから「グループ討議」を主としていることも大きな特徴である。具体的には、それぞれのFD研修会のテーマに基づいて、考え方の提案や調査結果の報告等がなされた後に、教員個々が自ら考え、多領域の様々な職位の教員間および教職員間で意見交換を行っている。このような方法によって、活発なディスカッションが展開されており、教員個々が豊かな学びや気づきを得る貴重な機会となっている。さらに、各グループの参加者の意見を記録した討議記録およびFD研修会に参加して考えた個人の意見が記載される意見・感想は、教員会議等を通じて教員間での共有が図られている。

以上述べてきたような、テーマの発案から評価の共有にいたるFD研修会の一連のプロセスに、教員一人ひとりが主体的に参画していること、それが全学的な取り組みとして定着していることは本学のFD活動の大きな特徴であると考えられる。

Ⅲ. FD活動としての他大学との交流

FD活動の一環として実施してきた他大学との交流について、これまでの概要を表2に整理した。開学当初から数年間は、他大学のFD活動の実際や体制などの情報収集をしながら、本学のFD活動のあり方を模索していた。平成17年度以降は、学外交流のテーマや学外交流先についても、教員から意見を募り、教員の関心あるテーマや、本学の全学的な取り組みや課題などを考慮して学外交流先を選定するようになった。学外交流は情報収集だけでなく、他大学との交流を通して相互研鑽を図ることを目的としており、本学の特徴的なFD活動として位置づけられている。今後も本学が直面している全学的な教育・研究能力の課題に合ったテーマを設定し、大学間相互研鑽の目的が達成される交流の可能性を探りながら学外交流を継続していきたいと考えている。

加えて、平成22年度からは千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センターが主催する看護学教育ワークショップへの参加をFD活動の一環として位置づけ、毎年度1名の教員を派遣してきた。このワークショップでは看護学教育に関する最新のトピックや喫緊の課題に関するテーマが設定され、全国の看護系大学からの参加者がテーマに関するグループワークに参加するものである。その成果については、参加教員から教員会議の場で全教員に共有がなされている。

Ⅳ. 本学のFD活動の体系化

これまで述べてきたように、大学全体への視野を持って考えることができる教員としての能力開発という観点から考えると、FD研修会や学外交流以外の大学の様々な取り組みや各教員の様々な活動は相互に連動して、大学の諸活動における課題解決や活動の発展につながっており、それらの活動がFD活動としての意義をもち機能していると考えられる。このことを踏まえて、FDに関連する様々な活動と本学の教員に求められる役割との関連について、図1に整理した。

教授会の活動や教員会議への参加、各種委員会・部会の活動は、大学の管理・運営への参画であり、教養・専門関連科目運営会議への参加や学内担当教員としての役割遂行は、4年間の教育全体に責任をもつ本学教員としての役割を果たすために必要なFD活動となっている。また、国際

表2 FD活動としての他大学との交流

年度	訪問月	訪問先	訪問目的及び交流概要	参加者数
30年度	10月	千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催の看護学教育ワークショップ(千葉大学)	テーマは「自大学の強みや使命を生かす CQI - 自大学を捉え直す・CQI へのエネルギーを得る」であり、講演「看護学教育モデルコア・カリキュラムの活用(仮)」を聴講後、「モデルを用いた自大学のとらえなおしワーク」「自大学でCQIを推進する上で必要な事・課題の整理」がテーマのグループワークに参加	1
29年度	10月	千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催の看護学教育ワークショップ(千葉大学)	テーマは「看護学教育の自律的・継続的質改善(CQI)の戦略を練る」であり、講演「高等教育行政における看護学教育への期待と質保証の課題」を聴講後、「自大学のCQI戦略の見直し」「CQI戦略洗練のためのアイデア交換」がテーマのグループワークに参加	1
	12月	長野県看護大学 看護実践国際研究センター 看護地域貢献活動研究部門	本学の共同研究事業と類似の目的を掲げた活動である地域住民へのケアの質やQOLの向上に貢献するプロジェクト、共同研究の現状と課題を情報収集し、今後の方向性などの意見交換を目的に訪問し、得た情報について意見交換	3(うち委員2)
28年度	10月	千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催の看護学教育ワークショップ(千葉大学)	テーマは「卒業時到達目標の評価をどう行い、どう活かすかー大学改革時代における看護学教育の継続的質改善への挑戦ー」であり、講演「看護系大学を取り巻く大学改革の動向」を聴講後、「自大学の到達目標からみた自大学の課題」「自大学の課題解決アクションプランの検討」がテーマのグループワークと「アクションプラン実現を推進するアイデア共有」に参加	1
27年度	9月	沖縄県立看護大学	置かれている状況や期待される役割の面で類似点が多い看護系単科大学におけるFD活動の取り組みについて情報収集し、本学のFD活動を充実させることを目的に交流。大学・大学院紹介、FD活動、地域貢献活動、島嶼研修の取り組み、大学院遠隔授業・実践島嶼保健看護について情報収集し、FD研修会の体系化に関する課題、大学へのアクセスが難しい島嶼地域のニーズへの対応の工夫などを中心に意見交換	5(うち委員3)
	10月	千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催の看護学教育ワークショップ(千葉大学)	テーマは「10年後を見据えた看護学教育の質改善の取り組みー臨地実習の質保証に焦点をあててー」であり、基調講演「人口問題から読み解く10年後の課題と展望」、特別講演「臨地実習の質保証に焦点をあてた看護学教育のチャレンジー米国の取り組みー」を聴講後、「自組織の組織分析のためのワークショップー組織分析から臨地実習の質保証の取り組みを考えるー」がテーマのグループワークに参加	1
26年度	10月	千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催の看護学教育ワークショップ(千葉大学)	テーマは「看護系大学教員の職能開発とキャリア支援ーFDマザーマップの活用を通してー」であり、基調講演「看護系大学教員キャリアの構造と課題」を聴講した後、「FDマザーマップによる自己分析」「マザーマップを用いたFD企画」がテーマのグループワークに参加	1
25年度	10月	千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催の看護学教育ワークショップ(千葉大学)	テーマは「[続]看護実践と教育の有機的連携に向けた看護系大学の取り組み」であり、基調講演「臨床と大学をつなぐ看護学教育者養成についてー日本看護系大学協議会調査結果より」を聴講した後、テーマに関するグループワークに参加	1
	3月	三重大学 医学部 看護学科	学生の主体的な学修を支援する教育に関する情報収集と相互研鑽を目的に交流。感じる力、考える力、コミュニケーション力、これら3つの力を統合した生きる力の4つの力に含まれる構成要素を重要視した成人看護学での試みの成果と課題、模擬患者を導入した成果の情報収集と意見交換	6(うち委員3)
24年度	10月	千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催の看護学教育ワークショップ(千葉大学)	テーマは「看護実践と教育の有機的連携に向けた看護系大学の取り組みー教育機能に焦点をあててー」であり、基調講演「看護学教育における臨床と大学の連携について」を聴講した後、テーマに関するグループワークに参加	1
23年度	10月	千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催の看護学教育ワークショップ(千葉大学)	テーマは「教員の教育力、実践力、研究力、協働力を組織的に高める」であり、基調講演「看護学教育への提言ー大卒ナース50年の総括として」を聴講した後、テーマに関するグループワークに参加し、グループワークの成果報告と質疑応答から、教育力、実践力、研究力、協働力の能力向上に向けての各大学での工夫や課題の情報を収集	1
	3月	石川県立看護大学	カリキュラムの概要、初年度教育に位置付けられているフィールド実習の目的・目標・方法・成果等を情報収集し、質疑応答を通じて取り組みの工夫や成果等について理解を深め、初年度教育に関する交流を実施	7
22年度	10月	千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催の看護学教育ワークショップ(千葉大学)	テーマは「学士課程における看護学教育の卒業時到達目標改訂版の展開」であり、基調講演「学士課程における看護学教育の卒業時到達目標改訂版導入に向けて」を聴講後、「学士力を育てることを目指した展開」がテーマのグループワークに参加	1

年度	訪問月	訪問先	訪問目的及び交流概要	参加者数
21年度	12月	三重県立看護大学	公立大学法人に移行する中で、本学の共同研究のような取り組みや相互研鑽型の研修への取り組みについて質疑を含めたディスカッションの実施	5
20年度	8月	名古屋大学シンポジウムホール	FDのあり方や他大学におけるFD活動の取り組みについて情報収集する目的で、「新段階に入ったファカルティ・ディベロップメント(FD)」をテーマとして開催されたIDEセミナーへの参加	委員1
	11月	文部科学省主催千葉大学看護学部企画の看護学教育ワークショップ	テーマは「看護実践能力の育成を目指した看護系大学教員のFD」であり、基調講演「FDの基本的な考え方と今後のあり方」を聴講した後、「学生の看護実践能力の育成を目指したFDのあり方」がテーマのグループワークに参加	委員1
	12月	金沢工業大学	体系的な倫理教育の取り組みに関する情報収集を行い、本学の倫理教育のあり方を検討	5(うち委員1)
	1月	日本看護系大学協議会FD委員会主催のパネルディスカッション(聖路加看護大学)	「看護系大学の将来を担う教員に対するFDのあり方について—大学における教授の指導力—」がテーマのパネルディスカッションに参加し、5つの大学の現状について情報収集	2
19年度	8月	IDE大学協会東海支部主催 平成19年度IDE大学セミナー(名古屋大学)	大学における学生支援の最前線をテーマとした講演及びシンポジウムの聴講	2(うち委員1)
	1月	日本看護系大学協議会FD委員会主催パネルディスカッション(聖路加看護大学)	看護系大学の将来を担う教員に対するFDのあり方について(大学院生・新入教員に向けての準備教育)をテーマとしたパネルディスカッションの聴講	委員2
	2月	平成19年度大学教育改革プログラム合同フォーラム(パシフィコ横浜)	基調講演の聴講、分科会(特色GP、現代GP等)への参加、ポスターセッション等	委員1
18年度	9月	名古屋大学高等教育研究センター ランチタイムFD	若手教員及び大学院生向けのFD活動であるランチタイムFDの視察、担当教員との質疑応答、名古屋大学高等教育センターの活動についての情報収集	3(うち委員1)
	11月	日本看護系大学協議会FD委員会主催講演会(聖路加看護大学)	基調講演(専門職教育と社会貢献)及びシンポジウム(主な内容:看護大学での教育、FD活動への提言)の聴講	委員1
	1月	日本看護系大学協議会広報・出版委員会主催シンポジウム(学士会館)	看護実践における大卒看護師の貢献と課題をテーマとしたシンポジウムの聴講	委員1
	3月	国立大学協議会大学改革シンポジウム(日本教育会館一ツ橋ホール)	講演(学士課程教育における教養教育の在り方、国立大学における教養教育について)の聴講	8(うち委員2)
	3月	愛知県立看護大学	実習における倫理指針策定プロセスに関する情報を収集し、本学の実習における倫理方針等の策定の参考にするため、倫理方針策定のプロセスや実習倫理に関わる取り組みの教員間の共有等に関する説明を受け質疑応答	4(うち委員2)
17年度	5月	岐阜大学医学部医学教育センター(MEDC)	大学における教育能力開発活動についての情報収集・交換、教育実践活動(チュートリアル教育、模擬患者参加型教育、客観的臨床能力試験)やFD活動の実際や課題に関する情報収集	11
	2月	日本看護系大学協議会FD委員会活動推進会議第3ブロック(愛知医科大学)	FD委員会活動に関するアンケート結果の報告、グループワークに参加し、各大学のFD委員会活動について現状把握	2(うち委員1)
16年度	8月	民主教育協会東海支部主催IDE大学セミナー「学生が輝くプログラムの開発」(名古屋)	大学におけるFD活動に関する情報を収集し、協働して取り組める課題を探索	不明
	8月	日本看護系大学協議会看護実践能力Dブロック検討会(本学)	大学におけるFD活動に関する情報を収集し、協働して取り組める課題を探索	不明
	12月	福井大学教育学部	特色ある大学支援プログラムに採用された大学の、地域と協働するプロジェクトの実際(プロジェクトの概要・活動)についての説明を受け、大学教員に必要な教育能力の育成について確認	8(うち委員3、事務局職員1)
	12月	日本看護系大学協議会第3ブロックFD活動推進会議(大阪府立看護大学)	他大学のFD活動の現状報告(活動内容、課題)、意見交換により他大学のFD活動の現状把握	委員2
15年度	8月	民主教育協会東海支部主催学生生活研究セミナー「地域と大学との連携について」(名古屋)	大学におけるFD活動に関する情報を収集し、協働して取り組める課題を探索	不明
	1月	日本看護系大学協議会ファカルティ・ディベロップメント委員会開催「看護系大学における教員の評価」	パネルディスカッションに参加し、FD活動に関する情報を収集、協働して取り組める課題を探索	不明
	3月	聖隷クリストファー大学看護学部	看護系大学のFD活動に関する情報交換・意見交換(主な内容:FD委員会の体制、主たる活動、他委員会及び他学部との連携、今後の課題)	3(うち委員2)
	3月	兵庫県立看護大学 附置研究所推進センター	情報交換・意見交換(主な内容:附置研究所推進センターの概要、地域貢献の現状と課題、教員の研修や能力開発の現状、地域に貢献する研究と教育との関連)を行い、地域に貢献する研究活動に関わる教員の研修や能力開発の現状を把握	4(うち委員1)

年度	訪問月	訪問先	訪問目的及び交流概要	参加者数
14年度	8月	民主教育協会東海支部主催学生生活研究セミナー「新しい教育づくりのためのファカルティ・ディベロップメント(FD)」(名古屋)	講演、パネルディスカッション(主な内容:大学教育の現状と課題、教授法・カリキュラム開発のためのFD、教育評価をめぐるFD、大学教職員の専門性向上の課題)に参加し、情報収集(他大学のFD活動の現状等)	委員2
	12月	日本看護系大学協議会第3ブロックFD活動推進会議(本学)	会議を傍聴(主な内容:FD体制の現状、運営上の課題、実施内容・方法)し、情報収集(他大学のFD活動の現状)	委員4
	3月	チュラロンコン大学、タマサート大学、チェンマイ大学(タイ)	海外交流事業の一環として3大学を視察・面接し、FDの体制とその活動、授業評価とそのいかし方、授業の工夫について情報収集	委員1

交流委員会による国際交流活動や自主学習会(スタートアップカフェ)への参加は、グローバル化が進展する国際社会に対応できる国際的な資質を備えるための活動である。そして、共同研究事業や看護実践研究指導事業への参加は、県内看護職の看護生涯学習を支援するという地域貢献活動であると同時に、看護実践研究の推進と実践現場との協働による大学の基盤づくりへの貢献であり、そのための能力開発の機会となっている。

さらに、平成28年度からは、これらさまざまなFDに関連する活動が、看護系大学教員として必要などのような

能力に焦点が当てられているのかを明確するための検討を行った。検討方法として、平成26年度～29年度の4ヶ年の間に実施した23件のFD活動をピックアップし、各研修会の「グループ討議」記録および参加者の意見・感想等の内容から、「看護学教育におけるFDマザーマップ活用ガイドVer.2(看護学教育研究共同拠点、千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター、看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト作成)」で示されている5項目の能力である「基盤」「教育」「研究」「社会貢献」「運営」の各要素に該当す

<FDに関連する活動や取り組み>

<左記の活動が反映する本学教員の役割およびFD活動としての意義>

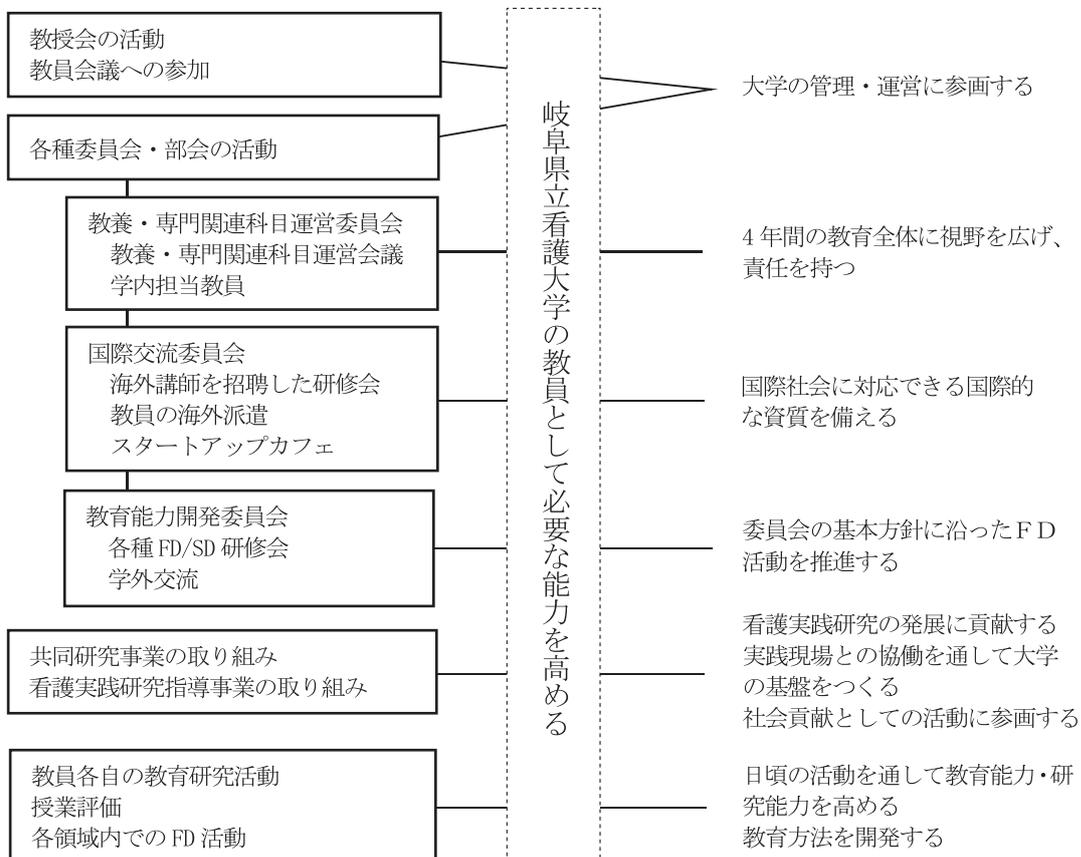


図1 岐阜県立看護大学におけるFDに関する活動の全体像

表3 平成26-29年度4ヶ年のFD研修会と看護系大学教員に必要な能力(FDマザーマップの構成要素)との関連 (○:該当 △:一部該当)

マザーマップの5構成要素	下位の要素	基礎		教育				社会貢献			研究				運営					
		看護系大学教員としての基礎力	看護専門職としての基礎力	教育者マインド	カリキュラム編成	入学者選抜	授業運営	臨地実習指導	学生支援	社会貢献のあり方	看護活動のイノベーション	地域貢献	研究者マインド	研究遂行能力	研究発信の意義と理解	国際化	組織と個人の理解	組織文化の創造	組織・フオロロのリーダーシップ	課題解決に向けた組織マネジメント
	H26 科学研究費助成事業応募に向けた研修会																			
	H26 大学とハラスメント-事例を通して考える-																			
	H26 学外交流(H25年度)報告「学生の主体的な学修支援(三重大学)」																			
	H26 一日研修会「生涯学習の基礎づくりにおける本学の教育の成果について」	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	H26 研究倫理に関する研修会		△																	
	H26 特別研修会-本学の原点から将来のあり方について考える-	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○
	H27 学生の主体的学修を促すための教育方法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	H27 本学の将来の教育について 本学の学生の特徴・ニーズ、教育の現状と成果から考える	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						△
	H27 キャンパスハラスメント防止研修会																			○
	H27 セキュリティ研修																			○
	H27 学外交流+報告会(H28)																			○
	H27 教養専門関連科目運営会議FD	△		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○
	H27 研究倫理教育プログラム																			
	H27 研究倫理に関する研修会		○																	
	H28 WBL 研修会+派遣(H27)																			○
	H28 1年次学修に関するガイダンス			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○
	H28 外部研究資金応募に向けた研修会																			
	H28 DPと教育活動の関連を考える研修会	△		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○
	H28 共同研究事業の今後の発展とあり方を考える研修会																			○
	H29 外部資金応募に向けた研修会																			
	H29 学位授与方針(DP)と教育活動との関連を考える研修会			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						△
	H29 学外交流「地域貢献活動」+報告																			○
	H29 看護実践研究指導事業のこれからのを考える研修会																			○
	H29 ハラスメント/セキュリティ研修会																			○

るものを抽出して、一覧表を作成することを試みた。これにより、マザーマップの5項目すべてに該当する内容が確認できた(表3)。先に述べたように、本学では各教員からの意見を基にFD研修会を企画してきたが、4ヶ年のFD研修会を通してFDマザーマップの構成要素を大凡網羅できていることが示された。

V. おわりに

これまでの本学の20年に亘るFD活動を振り返ると、大学教育機関として資質の高い看護職を育成するという社会の要請にこたえていくためには、既成の大学観にとらわれることなく、本学の理念と人材育成目標に直結した教育・研究活動を模索しながら、本学の教員のあり方やそのための教育能力を追究することが不可避であったのだと改めて感じる。教育能力開発委員会として、今後も教員一人ひとりが将来の大学の姿を見据えて、本学の教育、研究、地域貢献、大学運営のあり方に関して自ら考え、組織全体で意見交流し、課題解決に取り組んでいくような相互研鑽の機会を企画していきたいと考えている。

文献

看護学教育研究共同利用拠点千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター。(2015). 看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト. 2016-8-31. https://www.n.chiba-u.jp/center/static/pdf/network/report_fd.pdf

参考資料

岐阜県立看護大学教育能力開発委員会。(2003). 平成12～14年度教育能力開発委員会：活動まとめ。
 岐阜県立看護大学教育能力開発委員会。(2005). 平成14・16年度教育能力開発委員会：活動まとめ。
 岐阜県立看護大学教育能力開発委員会。(2008). 岐阜県立看護大学のFD活動の記録第3集(平成17-19年度分)。
 岐阜県立看護大学教育能力開発委員会。(2010). 岐阜県立看護大学のFD活動の記録第4集(平成20-21年度分)。
 岐阜県立看護大学教育能力開発委員会。(2012). 岐阜県立看護大学のFD活動の記録第5集(平成22-23年度分)。
 岐阜県立看護大学教育能力開発委員会。(2014). 岐阜県立看護大学のFD活動の記録第6集(平成24-25年度分)。

岐阜県立看護大学教育能力開発委員会。(2016). 岐阜県立看護大学のFD活動の記録第7集(平成26-27年度分)。
 岐阜県立看護大学教育能力開発委員会。(2018). 岐阜県立看護大学のFD活動の記録第8集(平成28-29年度分)。